対象： B-NHL(FL)　初発

レジメン名： **G-CHOP療法(1ｺｰｽ目)**

	コース目

患者ＩＤ：	
患者氏名 ：	

身長(cm)	体重(kg)	体表面積(㎡)	年齢(歳)	性別

投与スケジュール：	１コース２１日
目標コース：	8コース施行後、ガザイバ単独維持療法を２カ月ごとに２年間行う

《 注 意 》

ＣＤ２０陽性の濾胞性リンパ腫

※ **Infusion reaction**に要注意。　投与中はVital signのチェック(Monitor装着を推奨)

重度のInfusion reaction（ｱﾅﾌｨﾗｷｼｰ様症状、血管浮腫、気管支痙攣、発熱、悪寒、呼吸困難、低血圧等）が発現することがある。2回目以降の投与時に初めて発現することもある。

※ **腫瘍崩壊症候群**に要注意（血液中に大量の腫瘍細胞のある患者で初回投与後24時間以内に高頻度）

（腎不全、高Ｋ血症、低Ca血症、高尿酸血症、高Al-P血症）

※　オンコビン　最大投与量；**２mg/body**を越えないこと

※　プレドニン　Ｂ型肝炎；核酸アナログ製剤を併用、糖尿病；減量もしくは中止

※　日和見感染症に注意。胃潰瘍（PPIなど）、口内炎、便秘の予防について考慮すること

※　ガザイバは、1コース目は1,8,15日目、2コース目以降は1日目に投与する

《 使 用 薬 剤 》

ガザイバ（Obinutuzumab)：ガザイバ点滴静注 1000mg／40mL／V

ドキソルビシン（ＡＤＭ）：ドキソルビシン塩酸塩注射用 10mg／V、50mg／V

ビンクリスチン（ＶＣＲ）：オンコビン注 1mg／V

シクロホスファミド（ＣＰＡ）：エンドキサン注 100mg／V、500mg／V

プレドニゾロン（ＰＳＬ）：20mg／A、10mg／A、プレドニン錠 5mg

《 投 与 量 》

薬　剤　名	標準投与量		計算値	投与量(mg)	投与日
ガザイバ	1000	mg/body	1000.0		1,8,15
ドキソルビシン	50	mg/㎡	0.0		2
オンコビン	1.4	mg/㎡	0.00		2
エンドキサン	750	mg/㎡	0.0		2
プレドニン	100	mg/body			2　～　6

《 タイムスケジュール：開始時刻 》

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

Day1；　1月1日(土)

点滴前　**内服**　カロナール錠200mg　2T　１ｘ（１）

点滴前　**内服**　ポララミン錠2mg　1T　１ｘ（１）

0時00分　①　生理食塩液 100mL ＋ ソルメドロール 80mg

30 分で点滴静注

0時30分　②　生理食塩液 100mL

60 分で点滴静注

1時30分　③　生理食塩液 250mL ＋ **ガザイバ**　**0mg**　**0.00mL**

0.2μm or 0.22μmのﾌｨﾙﾀｰ一体型輸液ｾｯﾄを使用する

※1回目(Day1)の投与

↓　12.5mL/hr　（30分で点滴静注）

↓　患者の状態を観察しながら、30分毎に12.5mL/hrずつ上げることができる

↓　最大100mL/hrまで上げることができる

※day8,15の投与(前回、Grade2以上のInfusionReactionが発現しなかった場合)

↓　25mL/hr　（30分で点滴静注）

↓　患者の状態を観察しながら、30分毎に25mL/hrずつ上げることができる

↓　最大100mL/hrまで上げることができる

③終了後　④　生理食塩液 50mL

フラッシュ

Day2；　1月2日(日)　～　1月5日(水)

0時00分　①　生理食塩液 50mL + グラニセトロン 1A + **プレドニン**　**0mg**

15 分で点滴静注

0時15分　②　生理食塩液 50mL　＋　**ドキソルビシン**　**0mg**

10 分以内で点滴静注（全開）

0時25分　③　生理食塩液 50mL　＋　**オンコビン**　**0.0mg**

5 分以内で点滴静注（全開）

0時30分　④　生理食塩液 50mL

5 分以内で点滴静注（全開）

0時35分　⑤　生理食塩液 250mL + **エンドキサン**　**0mg**

2 時間で点滴静注

2時35分　⑥　生理食塩液 50mL

フラッシュ

Day3～6；　1月2日(日)　～　1月6日(木)

内服　プレドニン錠５mg　**0錠**　２ｘ（４）朝・昼食後

Day8,15；　1月8日(土)　1月15日(土)

点滴前　**内服**　カロナール錠200mg　2T　１ｘ（１）

点滴前　**内服**　ポララミン錠2mg　1T　１ｘ（１）

0時00分　①　生理食塩液 100mL ＋ ソルメドロール 80mg

15 分で点滴静注

0時15分　②　生理食塩液 100mL

60 分で点滴静注

1時15分　③　生理食塩液 250mL ＋ **ガザイバ**　**0mg**　**0.00mL**

0.2μm or 0.22μmのﾌｨﾙﾀｰ一体型輸液ｾｯﾄを使用する

※1回目(Day1)の投与

↓　12.5mL/hr　（30分で点滴静注）

↓　患者の状態を観察しながら、30分毎に12.5mL/hrずつ上げることができる

↓　最大100mL/hrまで上げることができる

※day8,15の投与(前回、Grade2以上のInfusionReactionが発現しなかった場合)

↓　25mL/hr　（30分で点滴静注）

↓　患者の状態を観察しながら、30分毎に25mL/hrずつ上げることができる

↓　最大100mL/hrまで上げることができる

③終了後　④　生理食塩液 50mL

フラッシュ

REFERENCE

W Hiddemann, AM Barbui, MA Canales, et al. Immunocehmotherapy with obinutuzumab or rituximab for previously untreated follicular lymphoma in the GALLIUM study: Influence of chemotherapy on efficacy and safety. J Clin Oncol. 2018 Aug 10;36(23):2395-2404.

2025年1月度化学療法プロトコール審査委員会承認：2025年1月13日